

2014年度第4回評議員会報告

開催日時：2014年11月22日（土）10:00～11:40

場 所：倉敷市立美術館第1会議室

出席者：評議員総数30名中、27名出席（委任状8名含む）

庶務幹事が評議員会の成立要件を満たしていることを確認したのち、会長が議長として協議に入った。先ず庶務幹事より機関誌等の発行、例会や評議員会の開催状況など2014年度事業報告があった。次に自然保護委員会活動、第3期役員選挙結果、2014年度学会賞選考結果（論文賞：村上広将、功労賞：森本 桂、渡辺泰明、奨励賞：蓑島悠介）が各委員長より報告された。これら報告と審議を経て、下記の議案を総会に諮ることとした。

議案1：2013年度収支決算報告について

・庶務幹事より会員動静と決算報告があり、審議・承認された。

議案2：2015年度事業計画について

・欧文誌は次巻よりInDesignによるDTP編集とし編集の効率化を図り、総額が増嵩しない範囲で予算配分を見直すこと、採集例会は社会環境を考慮し名称を「調査観察会」と変更し開催すること、また、バックナンバーの100%PDF化の進捗に合わせ、会誌在庫の処分を進めることなどを審議し、事業計画は承認された。

議案3：2015年度予算案について

・庶務幹事より議案2の事業計画遂行のための予算案の説明があり、審議・承認された。

議案4：評議員選挙に関わる問題と対応について

・次期役員選挙において会則の規定に則り5名が失格となった事態について、会長より説明があり、審議の結果、最高決議機関である総会にて失格者の当否を諮ることとした。

議案5：第3期役員案および運営幹事案について

・会則に則り総会に諮る副会長、各委員会委員長、会計監査委員、運営幹事について、原案通り承認した。

議案6：会則および会則運用規程の改訂案について

・庶務幹事から本年度評議員会での審議に基づき各規定の見直しを行い、適切な文言に改訂する旨の説明と提案があり、審議のうえ承認された。なお、本年度不備のあった評議員選出の規定は削除し、2015年度に改めて審議のうえ、改訂することとした。

議案7：2015年度第6回大会開催地について

・2015年11月21日（土）、22日（日）に北九州市立自然史・歴史博物館（いのちのたび博物館）での開催とし、事務局には同館の蓑島悠介氏に委任することとした。

（庶務幹事 奥田好秀）

第5回総会報告

開催日時：2014年11月22日（土）12:50～14:00

場 所：倉敷市立美術館 講堂

大会初日の午後に総会が開催された。会長挨拶に続き、会場提供などご支援いただいた倉敷市立自然史博物館の天本館長から温かい歓迎のお言葉を頂戴し、そのあと総会議長に大林副会長を選出し、庶務幹事より2014年度事業報告を行った。続いて、自然保護委員会活動、次期会長および評議員選挙結果、学会賞選考結果の各報告がそれぞれの委員長からあった。特に、評議員選挙での手続き不備について、選挙管理委員長より会員への謝罪と本総会にて改めて審議いただきたい旨の説明があった。その後審議に入り、下記の議案の審議が行われた。

議案1. 2013年度収支決算

・庶務幹事より決算説明があり、会計監査委員報告と併せて、異議なく承認された。

議案2. 2015年度事業計画

・庶務幹事より機関誌発行や例会などの事業計画の説明があり、そのうち採集例会について「調査観察会」と名称変更する旨説明があった。いずれの事業計画も異議なく承認された。

議案 3. 2015 年度予算案

・庶務幹事より収支予算案の説明があり、異議なく承認された。

議案 4. 評議員選挙に関わる問題と対応について

・評議員候補者の失格者は、既に資格が復活し、また運営に欠かせないことから、信任投票結果を有効とすることが提案され、異議なく承認された。

議案 5. 第 3 期役員案

・副会長、各委員会委員長、会計監査委員ならびに運営幹事の次期役員案は、原案通り異議なく承認された。

議案 6. 会則および会則運用規程の改訂案

・すべての改訂案は異議なく承認された。

審議事項が終了してから第 6 回大会に関する報告があり、2015 年 11 月 21 日～22 日に北九州市立自然史・歴史博物館にて開催されることが伝えられた。最後に、次期会長・野村周平氏の挨拶があり、来年度以降への力強い抱負に対して出席会員より温かい拍手が送られた。

このあと 2014 年度学会賞の授与式に移り、論文賞、功労賞、奨励賞の各賞が授与された。なお、都合により当日欠席された功労賞の渡辺泰明氏と同じく功労賞の森本桂氏より、後日お言葉を寄稿いただきましたので、下記に掲載いたします。

(庶務幹事 奥田好秀)

2014 年度日本甲虫学会功労賞を受賞して

渡辺泰明

今回図らずも日本甲虫学会から功労賞を授与していただき光栄に思っています。賞状には幾つかの学会貢献に関する事項が記されていますが、これらのなかで、本学会の前身である日本鞘翅学会、さらにその前身の甲虫談話会への貢献が評価されたことは、私には感慨深いものがあります。甲虫談話会の会誌「甲虫ニュース」の発行には苦勞しましたが、東京農業大学昆虫学研究室員と故笠原須磨生氏らの献身的な協力に負うところが多く、1989 年に甲虫談話会と日本鞘翅目学会との合併により日本鞘翅学会が設立された際には、会則制定等に関わり、その後 2007 年まで学会の運営委員として参画したことが思い出されます。いずれにしても、私の学会への貢献として認められた活動の陰には、多くの人達の協力があったればこそで、今回の功労賞は私とその人達の代表として受賞したものと認識しています。

時の経過とともに私も歳を重ね、後期高齢者に名を連ねて久しくなりましたが、「虫屋に定年なし」を退職時に宣言したとおり、今後も「虫との語り合い」を続けていく所存ですので、よろしくご厚誼のほどお願い申し上げます。

功労賞の受賞に感謝

森本 桂

「2014 年度日本甲虫学会賞功労賞」を頂きました。好きなことを長年継続しているだけと思いましたが、振り返ってみますと沢山の方からのご指導やご支援で、研究を続けてこられたことを実感します。終戦の翌年に、旧制中学で初めて昆虫採集に行きついで以来ですから、私の昆虫歴は戦後そのものです。長年を費やした「日本の昆虫、クチプトゾウムシ亜科 (第 2 冊)」が間もなく刊行となり、引き続きクチプトゾウムシ亜科に着手しました。今後も皆様方のご支援を賜りますようお願いいたします。有難うございました。

1. 2013年度決算報告

項目	予算	決算額	予算残
	円	円	円
会誌印刷費	4,980,000	5,000,361	△ 20,361
(Elytra, new series印刷 3,400,000円)		3,202,500	
(Elytra, new series送料 180,000円)		146,421	
(さやばね1,600,000円)		1,651,440	
事務費	323,000	200,970	122,030
通信費	50,000	18,710	31,290
大会例会助成費	180,000	160,000	20,000
報償費(学会賞)	100,000	40,740	59,260
予備費(衣笠名誉会員供花代)	100,000	21,000	79,000
負担金(分類学会連合負担金)	10,000	10,000	0
次年度繰越金	3,083,000	4,465,290 *	1,382,290
合計	8,826,000	9,917,071	

項目	予算	決算額	差額
	円	円	円
前年度繰越金	3,000,000	3,243,717	243,717
会費収入	5,300,000	5,858,000	558,000
(正会員@8,000円×650名=5,200,000円)			
(学生会員@5,000円×20名=100,000円)			0
広告費	60,000	147,000	87,000
(Elytra, new series: 40,000円)			0
(さやばねニューシリーズ 20,000円)			0
出版物売上金	200,000	185,360	△ 14,640
学会誌著者負担金	250,000	466,149	216,149
東日本大震災会員援助金(特別会計より)	16,000	16,000	0
雑収入(利息等)		845	845
合計	8,826,000	9,917,071	

2. 特別会計 2013年度決算報告

収入	予算	決算	差額
前年度繰越金	2,058,788 円	2,058,788	0 円
利息		330	330
合計	2,058,788	2,059,118	330

支出	予算	決算	予算残
	円	円	円
次年度繰越金	2,058,788	2,059,118	
合計	2,058,788	2,059,118	

3. 2015年度予算

収入	内訳	(円)
前年度繰越金		4,400,000
会費収入		5,430,000
	正会員@8,000円×660名=	5,280,000
	学生会員@5,000円×20名=	100,000
	団体会員、海外会員@10,000円×5=	50,000
広告費		60,000
(Elytra, new series)	20,000円×2回×1社	40,000
(和文誌)	5,000円×4回×1社	20,000
出版物売上金		150,000
	バックナンバー等	150,000
別刷り代等	別刷り等著者担金等	400,000
合計		10,440,000

支 出	内 訳	予 算
会誌印刷費		4,880,000 円
(Elytra, new series)	印刷費@1,500,000×2回	3,000,000
	送料@80,000円×2回	160,000
(和文誌)	印刷費(送料込)@430,000×4回	1,720,000
事務費		700,000
	Elytra, new series編集費	400,000
	和文誌編集費	100,000
	タックシール、振込手数料、消耗品等	150,000
	バックナンバーpdf化費用	50,000
通信費	郵送代、切手代など	30,000
大会・例会助成費		160,000
	大会助成費	100,000
	東京例会会場費@10,000×2	20,000
	大阪例会助成費@10,000×2	20,000
	名古屋例会助成費@10,000×2	20,000
報償費	学会賞および受賞者旅費補助	160,000
予備費		100,000
負担金	分類学会連合分担金	10,000
次年度繰越金		4,400,000
合 計		10,440,000

4. 特別会計 2015年度予算

取 入	内 訳	(円)
	前年度繰越金	2,059,447
合計		2,059,447
支 出	内 訳	(円)
	次年度繰越金	2,059,447
合計		2,059,447



坂本洋典・森照貴・小泉逸郎, 2014. 温泉・地熱地帯は生物多様性のホットスポットか? 生物科学, 65(4): 245-255.

本論文は、温泉工学会誌に江本義数が連載した「我が国の温泉中に棲息する生物：その1～8」(1964-1967) および「続・我が国の温泉中に棲息する生物：その1～6」(1968-1969) についてのレビューである。温泉に関わりがある生物を「温泉生物」と定義し、特殊な環境に生息している温泉生物の面白さや今後の課題を整理している。甲虫類はガムシ類など水生甲虫を中心に実に7科28種が記録されているが、江本の原著に当たると古い学名を使用したものが多く、見直しが必要であろう。

私自身、これまでに各所の露天の温泉に入ったが、温泉内に生息する甲虫を採集したのは、北海

道支笏湖畔の丸駒温泉でコモンシジミガムシを採集したたった一度きりである。残念ながら本種は上の総説によると、東北から九州の27温泉から既に記録されており、温泉生物の中では常連なのかも知れない。

幼少時代に穴が空くほど読みふけた「甲虫とつきあう本」(平野幸彦, 1985, 日本交通公社)に甲虫観察のポイントの1つとして「小さな温泉の周辺も好ポイントとなる」とあり、確かに霧積温泉や扉温泉のように有名採集地は温泉の周辺だな、と思っていた。物心がついて温泉の良さも判る歳になってくると、温泉周辺が採集ポイントというのは単に採集後の楽しみに起因する副次的なことなのではないか、と思うようになっていた。

本レビューを見ながら、今後は温泉に浸かる楽しみがもう1つ増えたことに、素直に喜びを覚える。

(吉富博之 愛媛大学ミュージアム)